



基本操作

● メイン画面の操作



RenameQの基本的な使い方の手順は以下のようになります。

1. 処理内容を設定する

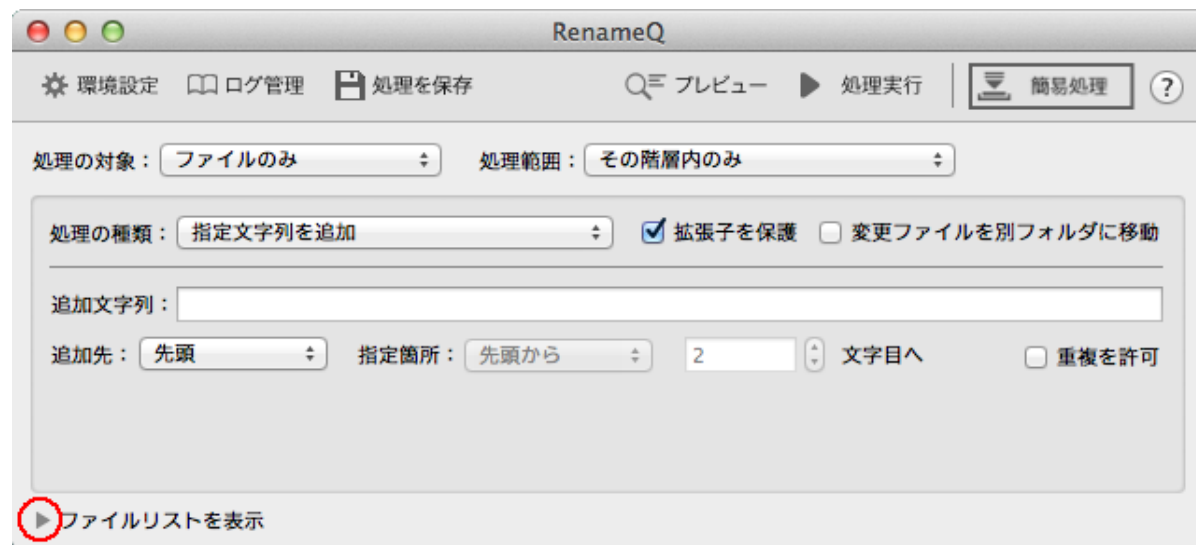
図の①のポップアップメニューから実行したい処理内容を選択します。

ファイル名の拡張子以外の部分のみの変更処理をしたい場合はその右隣の「拡張子を保護」チェックボックスをチェックします。拡張子ごと変更する場合はチェックを外してください。「拡張子を保護」にチェックをしている場合、ファイル名にピリオドが含まれているとピリオド以降は拡張子と見做されます。ピリオド以降もファイル名として処理したい場合はチェックを外して処理を実行してください。また、変更後のファイルを別フォルダに移動したい場合はさらに右隣の「変更ファイルを別フォルダに移動」チェックボックスをチェックしてください。同階層に「ファイル名変更後」という名前のフォルダを作成してその中に移動します。変更後のファイルが同階層の別のファイルとファイル名が重複してしまう場合などに使用してください。テキスト整形処理でも触れていますが、アルファベットの大文字／小文字の違いはファイル名の違いとは認識されません。処理の結果、大文字か小文字かが変わるだけといったケースにおいても別フォルダに移動の処理が必要になる場合があります。

各処理の詳しい内容については次章から各処理ごとに説明しています。

2. 処理対象ファイルを設定する

処理対象データの設定は、選択したデータをリストに表示して変更後の状態を確認してから変更処理をしたい場合は、「ファイルリストを表示」のディスクロージャ（下図赤丸部分）をクリックして下向きにし、ファイルリストを表示させた上で、ファイルリストへ処理対象データをドラッグアンドドロップします。ファイルリストを表示させている場合のみ、リスト上のチェックのON/OFFの変更で処理するかしないかを変更することが可能です。また、リスト右上のソート用ポップアップメニューの変更により登録したファイルの処理順を変更することができます。ソートについて、詳しくは連番による処理を参照してください。



設定後にそのままファイル名変更処理を実行したい場合は右上の「簡易処理ボタン」へ処理対象データをドラッグアンドドロップします。「簡易処理ボタン」は、ファイルリスト非表示時のみ使用できます。

いずれの場合も、図の②'のポップアップメニューからドロップされたファイルからどのファイルを抜粋するかを設定することができます。左側の「処理の対象」ポップアップメニューからは、ドロップされたデータのうちのファイルのみ、フォルダのみ、ファイル・フォルダの両方を処理対象とするかを設定します。右側の「処理範囲」ポップアップメニューからは、ドロップされたデータにフォルダが含まれる場合に、その階層内のみのデータを処理対象とするか、1階層下までとするか、それとも階層下のすべてのデータを対象とするかをそれぞれ選択できます。

もうひとつの処理方法に、メイン画面を非表示にしてアプリケーションをドロップレットとして使用する方法がありますが、それについてはドロップレットとして使用するで詳しく説明します。

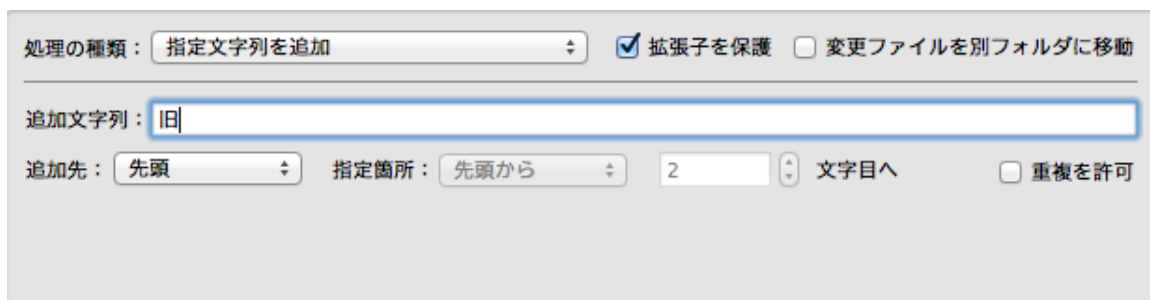
3. プレビューを表示する（任意）

図の⑥のボタンでファイルリストに登録されたデータの変更後の名称を表示します（ファイルリスト表示時のみ有効）。変更後の名称に何らかの問題がある場合は新ファイル名は赤で表示されます。ファイル名に変更がない場合もエラーとして表示されます。

4. ファイル名変更処理を実行する

図の⑦のボタンでファイルリストに登録されたデータの名称変更を実行します（ファイルリスト表示時のみ有効）。処理後は、環境設定で「リネーム処理終了後エラー発生時以外はダイアログを表示しない」をオンにしていた場合は、エラーが発生した時のみ、オフにしていた場合は常時、名称変更したファイル数とエラー情報がダイアログで表示されます。簡易処理ボタンから変更処理を実行した場合、ドロップレット処理の場合も同様です。

● 指定文字列を追加



指定した任意の文字列を追加します。

追加文字列に追加したい文字を入力し、「追加先」ポップアップメニューから追加先を選択します。追加先は「先頭」「末尾」「指定箇所...」の3種から選択します。「指定箇所...」を選択した場合は右隣の「指定箇所」ポップアップメニューで「先頭」と「末尾」のどちらからカウントを開始するかを選択したうえで、何文字目に挿入したいか入力してください。

「重複を許可」チェックボックスは指定箇所に追加文字列と同じ文字があった場合でも更に追加する場合にチェックします。

● 指定文字列を削除

処理の種類： 指定文字列を削除 ☒ 拡張子を保護 ☐ 変更ファイルを別フォルダに移動

削除文字列：

削除先： 先頭 ☒ 大文字と小文字を区別 ☒ 半角と全角を区別

指定した文字列を削除します。

削除したい文字を入力し、「削除先」ポップアップメニューで、どの場所から削除するかを指定します。削除先は「先頭」「末尾」「指定なし」の3種類から選択します。「先頭」と「末尾」はそれぞれ先頭あるいは末尾に該当文字列があった場合にのみ削除を実行します。「指定なし」を選んだ場合はファイル名に含まれる削除文字列すべてが削除されます。

「大文字と小文字を区別」「半角と全角を区別」チェックボックスをオン／オフすることで、検索の際にそれぞれ大文字と小文字を区別するか、半角と全角を区別するかを変更することができます。半角と全角の区別は、アルファベットおよびカタカナに対して有効です。

● 指定文字列の検索置換

処理の種類： 指定文字列の検索置換 ☒ 拡張子を保護 ☐ 変更ファイルを別フォルダに移動

検索文字列： ☒ 大文字と小文字を区別

置換文字列： ☒ 全角と半角を区別

検索文字列と置換文字列を入力し、ファイル名に含まれるすべての検索文字列を置き換えます。

「大文字と小文字を区別」「半角と全角を区別」チェックボックスをオン／オフすることで、検索の際にそれぞれ大文字と小文字を区別するか、半角と全角を区別するかを変更することができます。半角と全角の区別は、アルファベットおよびカタカナに対して有効です。

● 場所と文字数を指定して削除

処理の種類： 場所と文字数を指定して削除 ☒ 拡張子を保護 ☐ 変更ファイルを別フォルダに移動

削除開始箇所： 末尾 文字目から 文字分を削除

指定した場所にある文字列を削除します。

● 連番による処理

処理の種類： 連番による処理 ☒ 拡張子を保護 ☐ 変更ファイルを別フォルダに移動

ファイル名全体をリネーム

付加文字列(前)： 付加文字列(後)：

最初の番号： 桁数： 増分：

付加先： 先頭 指定箇所： 先頭から 文字目へ ☐ 重複を許可

最初の番号・桁数・増分を指定して連番による文字列を作成してリネームします。連番文字列の前後に任意の文字列を付加することができます。

ファイル名全体をリネームするか元のファイル名に連番を付加するかをポップアップメニューから選択します。元のファイル名に付加を選択した場合は付加先の指定および重複を許可するかどうかの設定が必要になります。「追加先」ポップアップメニューから追加先を選択します。追加先は「先頭」「末尾」「指定箇所...」の3種から選択します。「指定箇所...」を選択した場合は右隣の「指定箇所」ポップアップメニューで「先頭」と「末尾」のどちらからカウントを開始するかを選択したうえで、何文字目に挿入したいか入力してください。

「重複を許可」チェックボックスは指定箇所に追加文字列と同じ文字があった場合でも更に追加する場合にチェックします。

RenameQではファイルリストのリスト順に処理が行われます。そのため、あらかじめファイルリストを連番を振りたい順にソートしておくことで、連番の順を調整することができます。ファイルリストは初期状態が「ドロップ順」（昇順）となっていますが、他に「名前順」「作成日順」「変更日順」での昇順／降順ソートが可能です。

● 連番の増減

処理の種類：

連番の増減

☒ 拡張子を保護 ☐ 変更ファイルを別フォルダに移動

連番の位置：

末尾

1

文字目から

3

文字分

増減値：

2

連番がつけられたファイル名の連番の増減を行います。
連番の場所と増減値を指定して処理を実行してください。

● 作成日／変更日による処理

処理の種類：

作成日/変更日による処理

☒ 拡張子を保護 ☐ 変更ファイルを別フォルダに移動

元のファイル名に付加

使用する情報：

作成日

付加文字列(前)：

IMG_

付加文字列(後)：

フォーマット：

MM月dd日_

記述子一覧

プレビュー：

IMG_10月10日_

付加先：

先頭

指定箇所：

先頭から

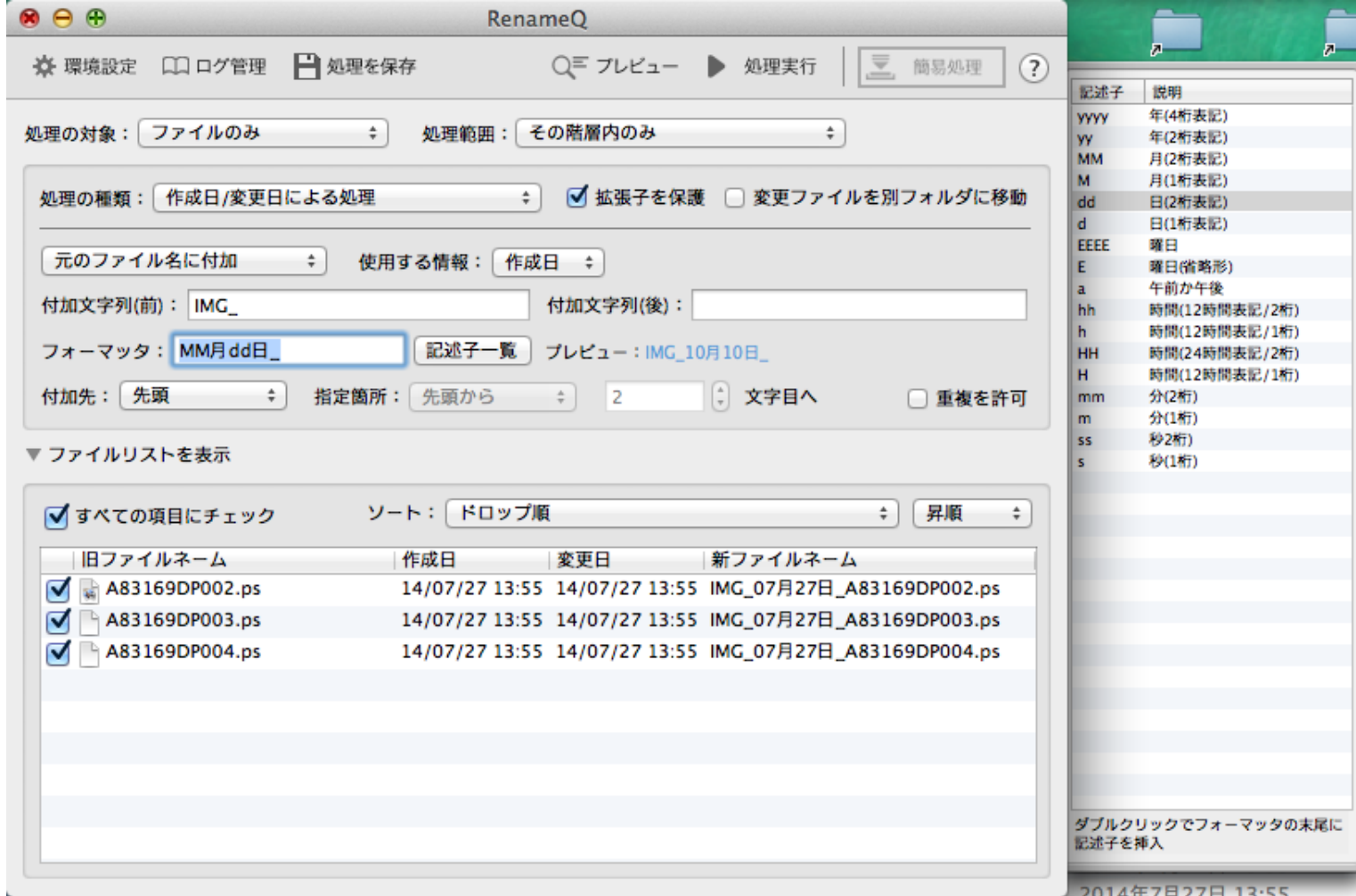
2

文字目へ

☐ 重複を許可

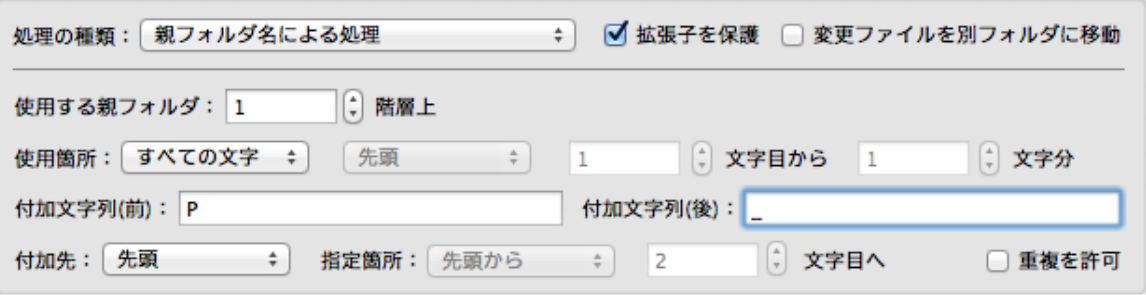
登録されたファイルの作成日または変更日から文字列を作成してリネームします。

作成日か変更日の使用したい情報をポップアップメニューから選択し、フォーマットに使用する情報と間に入れる文字を指定します。フォーマットで使用する文字列の説明は「記述子一覧」ボタンを押すとフォーマット記述子の一覧がウィンドウ右のドロワーに表示されますのでそちらの説明を参照ください（下図）。



記述子一覧は使用したい項目をダブルクリックすることでフォーマッタの末尾に該当記述子を追加します。フォーマッタで使用する文字列を通常の文字列としてフォーマッタ内で使用することはできません。記述子を通常の文字として付加したい場合は日付文字列の前後に付加したい文字を「付加文字列(前/後)」で設定することができますのでそちらに入力してください。フォーマッタを確定する（フォーマッタにカーソルが立っている状態でenterキーを押す、あるいは記述子一覧からダブルクリックでフォーマッタに入力する）と、右隣のプレビュー欄に付加文字列を含めた日付文字のプレビュー（使用する日付は本日の日付）を見ることができます。ファイル名全体をリネームするか元のファイル名に連番を付加するかをポップアップメニューから選択して処理を実行してください。

● 親フォルダ名による処理



指定した階層の親フォルダの名称から文字列を取得してリネームを行います。使用する親フォルダの階層をリネームするファイルの何階層上かで指定します。そしてその下の「使用箇所」で親フォルダ名のどの部分を使用するかを指定します。前後に文字列を付加したい場合は「付加文字列（前/後）」に入力してください。追加先は「先頭」「末尾」「指定箇所...」の3種から選択します。「指定箇所...」を選択した場合は右隣の「指定箇所」ポップアップメニューで「先頭」と「末尾」のどちらからカウントを開始するかを選択したうえで、何文字目に挿入したいか入力してください。「重複を許可」チェックボックスは指定箇所に追加文字列と同じ文字があった場合でも更に追加する場合にチェックします。

● 区切り文字による処理

処理の種類： 区切り文字による処理 ☒ 拡張子を保護 ☐ 変更ファイルを別フォルダに移動

区切り文字より前を置換

区切り文字： -

置換文字： A01

区切り文字として使用している文字列を指定し、ポップアップメニューから処理の種類を選択して実行します。選択できる処理内容は「区切り文字より前を置換」「区切り文字より後ろを置換」「区切り文字以前を削除」「区切り文字以降を削除」の4種類です。置換処理は区切り文字を残してそれよりも前か後ろの文字を入力した置換文字に置換します。削除処理は区切り文字を含むそれより前あるいは後ろの文字を削除します。いずれも区切り文字が複数含まれる場合は検索する方向からひとつめの区切り文字のみを区切り文字として認識します。

● テキストの整形

ポップアップメニューからさまざまなテキスト整形処理を選択、処理します。選択できる処理内容は以下のとおりです。

・ 数字をすべて半角に

全角数字を半角に変更します。算用数字のみ処理されます。

・ 数字をすべて全角に

半角数字を全角に変更します。算用数字のみ処理されます。

・ 英数字をすべて半角に

算用数字、アルファベット、記号類を半角に変更します。処理される文字種は以下のとおりです。

!	"	#	\$	%	&	'	()	*	+	,	-	.	/	:	;	<	=	>	?	@	[\]	^	_	`	{		}	~
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9																						
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z						
a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	p	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z						

・ 英数字をすべて全角に

算用数字、アルファベット、記号類を半角に変更します。処理される文字種は上記「・英数字をすべて半角に」を参照ください。」

・ カタカナをすべて半角に

全角カタカナを半角に変更します。

・ カタカナをすべて全角に

半角カタカナを全角に変更します。

・ すべての文字を半角に

半角の字形があるすべての文字を半角に変更します。

・すべての文字を全角に

すべての文字を全角に変更します。

・英字をすべて大文字に

アルファベットをすべて大文字に変更します。大文字／小文字の違いはファイル名の違いとしては認識されません。この処理を選択した場合は保存先は自動的に「変更ファイルを別フォルダに保存」が選択されます。

・英字をすべて小文字に

アルファベットをすべて小文字に変更します。大文字／小文字の違いはファイル名の違いとしては認識されません。この処理を選択した場合は保存先は自動的に「変更ファイルを別フォルダに保存」が選択されます。

・キャピタライズ

アルファベットをキャピタライズします。先頭のアルファベットおよびアルファベット以外の文字の直後のアルファベットの先頭文字のみを大文字にします。大文字／小文字の違いはファイル名の違いとしては認識されません。この処理を選択した場合は保存先は自動的に「変更ファイルを別フォルダに保存」が選択されます。

・ひらがなをローマ字に変換

すべてのひらがなを半角ローマ字に変換します。

・ローマ字をひらがなに変換

すべてのローマ字をひらがなに変換します。全角ローマ字は処理されません。全角ローマ字をひらがなにしたい場合は一度半角変換を掛けてからこの処理を選ぶことによってひらがな化することができます。

・カタカナをローマ字に変換

すべてのカタカナを半角ローマ字に変換します。全角・半角カタカナともに同様に処理します。

・ローマ字をカタカナに変換

すべてのローマ字をカタカナに変換します。全角・半角ローマ字ともに処理されます。

・先頭末尾のスペースを削除

先頭末尾にある空白文字を削除します。全角・半角スペースともに処理されます。

● ドロップレットとして使用する

RenameQは、有効な処理設定が行われていれば、メイン画面を閉じた後もアプリケーション終了までその設定を保持し続けます。有効な処理設定がなされている状態でアプリケーションアイコンに処理したいファイルをドラッグアンドドロップすれば、メイン画面を非表示のままリネーム処理を行います。画面を閉じる前に設定した処理が有効でなかった場合はその旨を告げるダイアログが表示された後、設定画面に移りますので、処理を設定し直して再度処理を試みてください。

この設定は、環境設定で「終了時にウインドウの状態を保存する」のチェックボックスをオンにしていた場合、アプリケーション終了後も保持されます。その場合は、一度アプリケーションを終了した後も継続してドロップレットとして使用することが可能です。同様にアプリケーションアイコンに処理したいファイルをドラッグアンドドロップしてください。ここでいうドロップ先のアイコンとは、アプリケーションファイル、そのエイリアス、Docに配置されたアイコンをさします。すべて同様に処理されます。

処理を設定し直したい場合は、アプリケーションアイコンをダブルクリック（Docアイコンの場合はシングルクリック）するか、ドローメニュー「ファイル」→「処理設定を開く（command + O）」でメイン画面が表示される

ので、通常通り設定を行ってください。



マクロ処理とマクロ管理

● 処理の保存

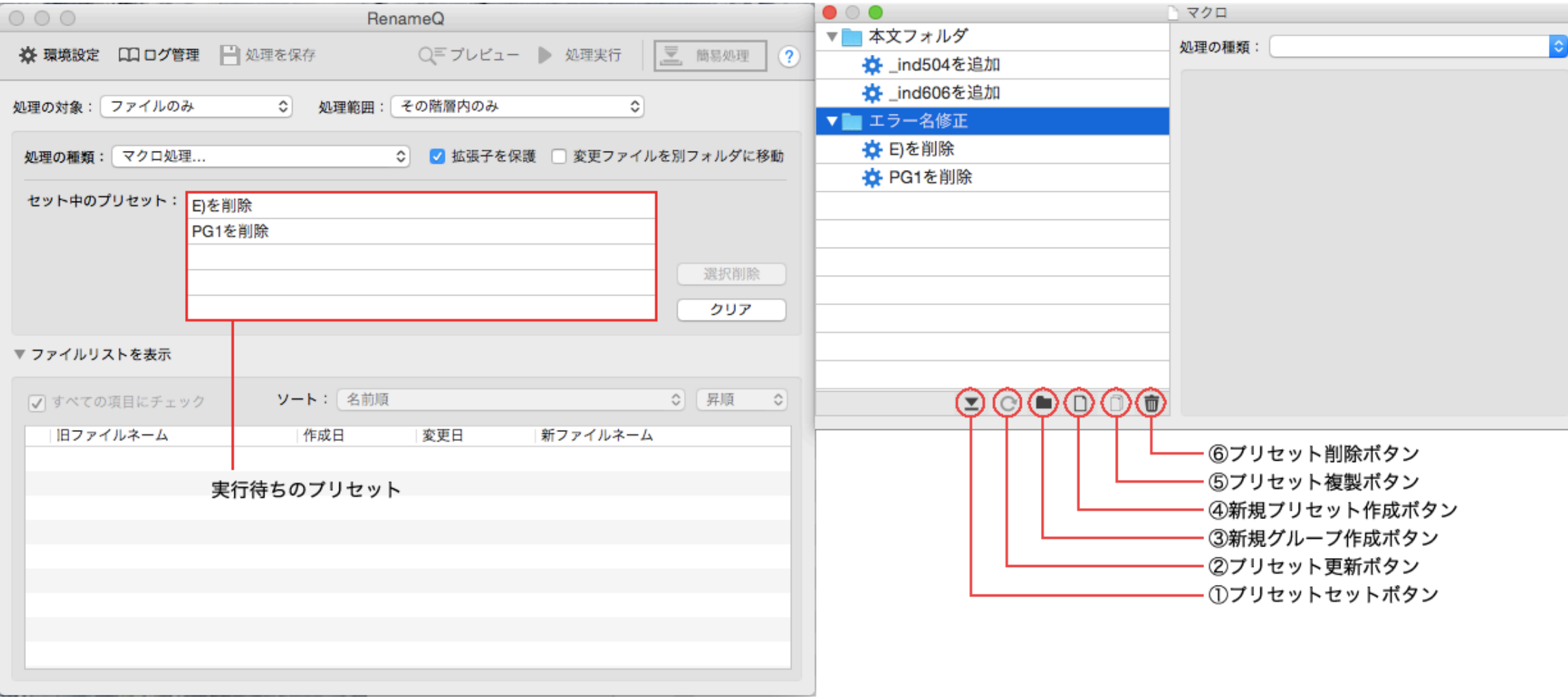


RenameQでは、通常の処理内容を入力した際にその内容をプリセットとして登録しておき、一連の命令群マクロとして再利用することができます。プリセットはメイン画面で処理を設定後に上部の「処理を保存」ボタンを押して作成します。入力内容に問題がなければ、プリセット名を入力するためのダイアログが出てきますので、既存のプリセットと重複のないように名前をつけて登録してください。重複があった場合は警告が出ますので、上書くか別名で保存するかを選択してください。

プリセットの作成は、マクロパネル表示中にパネルから行うこともできます。パネルからの作成方法についてはマクロの管理・[新規プリセットの作成](#)を参照ください。

● マクロの管理

マクロの整理・削除等の管理はすべてマクロパネルから行います。ドローメニューの「マクロ」→「マクロパネルを表示（command + M）」で表示するか、ポップアップメニュー「処理の種類」から「マクロ処理...」を選択します。



・新規プリセットの作成

新規プリセットの作成はメイン画面の「処理の保存」から行うほか、マクロパネルからできます。マクロパネルのプリセットリスト下の「新規プリセット」ボタン（図④）を押すか、ドローメニュー「マクロ」→「新規プリセット（command + N）」を選択してください。空のプリセット「名称未設定」が作成されます。作成したプリセットは後からでもリスト内でドラッグアンドドロップすることで、自由に移動することが可能ですが、作成の前にあらかじめリスト内の項目を選択しておくと、グループを選択している場合はそのセット内に、プリセットを選択している場合は選択されたプリセットと同階層に、新規プリセットを作成します。

マクロパネルから新規作成したばかりのプリセットは内容を持たない空のプリセットです。名称を変更するにはリストで選択してカーソルが上にある状態で少しの間待つか、enterキーを押せば、名称が編集状態になりますので、その状態で入力を行ってください。

内容を登録するには、次の[プリセットの更新](#)を参照してください。

マクロパネルからプリセットの作成や複製を行う場合、同プリセットを複数登録することができます。例えば別のグループに同じプリセットを入れておく、といったことができるわけです。ただし、同じ名前が違う内容のプリセットを作成することはできません。プリセットの内容を変更した際、同名のプリセットが存在する場合はそちらの内容も更新されますのでご注意ください。

・プリセットの更新

既存のプリセットの内容を変更する時やマクロパネルから新規作成した空のプリセットの内容を登録する際には、更新するプリセットをリスト上で選択し、パネル右側で処理内容を入力あるいは変更してから、「プリセットを更新」ボタン（図②）を押すかドローメニュー「マクロ」→「プリセットを更新」を選択してください。更新する前は内容の入力はできますが、確定はしていません。そのまま別の作業をした場合は入力内容は破棄されてしまいます。入力後は必ず更新したうえで次の作業に移ってください。 内容の入力の仕方は通常の処理入力と変わりません。不明点は基本操作を参照してください。また、新規プリセットの作成で触れたように、更新の際に同名のプリセットが存在した場合は、そちらの内容も同様に更新されます。詳しくは新規プリセットの作成を参照ください。

・新規プリセットグループの作成

プリセットをまとめるためのグループを作成します。作成に制限はありません。グループの中にさらに別のグループを内包することもできます。

作成には、「新規グループ作成」ボタン（図③）を押すか、ドローメニュー「マクロ」→「新規プリセットグループ作成（command + G）」を選択してください。作成したグループは後からでもリスト内でドラッグアンドドロップすることで、自由に移動することが可能ですが、作成の前にあらかじめリスト内の項目を選択しておく、グループを選択している場合はそのセット内に、プリセットを選択している場合は選択されたプリセットと同階層に、新規グループを作成します。

・プリセットの複製

既存のプリセットを複製します。複製したいプリセットをリスト上でひとつ選択し、プリセット複製ボタン（図⑤）を押すか、ドローメニュー「マクロ」→「プリセットを複製（Command + D）」を選択してください。リストの末尾の一番上の階層に選択されたプリセット名に「のコピー」の文字が付加された複製を作成します。複製後はほかのプリセット同様に自由に名称や内容の変更、移動ができます。

・プリセットの削除

プリセット・グループの削除を行います。削除したいプリセットやグループを選択して「プリセット削除」ボタンを押すか、ドローメニュー「マクロ」→「プリセットを削除（command + delete）」を選択してください。グループを選択している場合は内包されたプリセットも削除します。

● マクロ処理の実行

マクロパネルから使用したいプリセットを実行待ちのプリセットリストにセットします。
パネル上で使用したいプリセットやプリセットグループを選択し、「プリセットセット」ボタン（図①）を押すか、ドローメニュー「マクロ」→「プリセット実行リストにセット」を選択してください。プリセットを選択している場合は選択中のプリセットが、グループを選択している場合は内包するすべてのプリセットが実行待ちリストにセットされます。

実行待ちリストからプリセットを削除したい場合は、削除したいプリセットを選択して右隣の「選択削除」ボタンを押すか、ドローメニュー「マクロ」→「セット中のプリセットを選択削除（command + delete）」を選択してください。リスト内をすべて削除したい場合は「クリア」ボタンを押すか、ドローメニュー「マクロ」→「セット中のプリセットを全削除」を選択します。

セットの順番を調整したい場合はリスト内で項目を任意の場所へドラッグアンドドロップしてください。
以上までが、処理実行までの準備です。以降はほかの処理を実行する時と同様に、ファイルリストで実行結果のプレビューを確認する場合はファイルリストに対象ファイルをドラッグアンドドロップでセットし、「プレビュー」ボタンを押して新ファイル名称を確認後、「処理を実行」ボタンを押してください。結果の確認が必要ない場合はファイルリストを閉じて「簡易処理」ボタンに対象ファイルをドラッグアンドドロップしてください。

● マクロデータの書き出しと読み込み

作成したプリセットはxmlデータとして書き出して保存しておいたり、別のマシンで使っているRenameQで読み込んで利用したりすることができます。書き出したいプリセットをマクロパネル上のリストでひとつ選択して、ドローメニュー「マクロ」→「プリセットの書き出し...」を選択してください。書き出し場所を設定するためのパネルが表示されますので書き出し先と名称を設定して保存してください。

読み込みの際はドローメニュー「マクロ」→「プリセットの読み込み...」を選択して、読み込みたいプリセットデータを選択してください。あらかじめ、マクロパネルのリストでグループを選択しておけば、その階層内にプリセットを読み込むこともできます。